学　会　記　録

学会記事

1.　第７回年次大会概要

昭和43年第７回全国大会の全スケジュールは、８月４日より８月11日の長期に亘り盛夏にふさわしい北海道各地において開催された。全体を通じ、きわめて大型大会であり、各会を通じての出席者は133名におよびきわめて成会であった。その大会プログラムの詳細を示すと次のようである。

月日	時間	行事内容	担当その他	備考
8/4（日）	18.00 18.00 19.30〜21.00	函館駅前集合(当日学会にて案内) 市内見学 夕食・懇親会	函館実行委員会 函館大学 市港湾部 商工会議所	期間中のバス夕食・飲物費は市・商工会議所・函館大学で負担
8/5（月）	9.00〜11.00 12.00 13.00〜15.00 15.10 16.10 20.00	宿舎にバスで出迎え 函館港見学 昼食（函館大学） シンポジユウム（函館大学）「青函トンネル開通の函館経済へ及ぼす影響（別紙ご参照） （バスにて出発） 第１すずらん乗車（座席指定をご希望の方は個人で予約されれば便利です） 洞爺湖着（宿舎にご案内します）	室蘭実行委員会	昼食・シンポジユウム経費は函館大学で負担
8/6（火）	8.30 10.00 12.40 13.30 15.00 18.00 19.30	宿舎にバスで出迎え 室蘭港見学 昼食（参加者負担・食堂利用） バスにて苫小牧へ出発 苫小牧港見学（明野工業用地をふくむ） 支笏湖経由札幌着 小樽着（各位の宿舎へご案内します）	室蘭実行委員会	バス代は実行委員会で負担
8/7（水）	9.00	小樽港（展望台・港内）見学 （9.00小樽市港湾合同宿舎前に集合）	苫小牧実行委員会	バス代は実行委員負担

8/7（水）	10.30 11.00 12.30 13.30 14.00 〜 17.20 18.00 〜 20.00	大会受付開始 講演会（別紙ご参照） 昼食（理事・役員会） 第7回大会開会（別紙ご参照） 研究報告会（自由論題） （終了） 懇親会（於北海ホテル） （参加者負担 300円） （終了）	大会実行委員会 本部事務局	懇親会費は主に小樽市・北海道庁・北海学園大学・港湾関係各社・その他にて負担
8/8（木）	9.00 9.30 11.30 12.40 〜 17.00	受付開始 研究報告会（自由論題つづき） 記念撮影（合同庁舎前集合） 昼食（会場にて） 研究報告会（共通論題報告） （流通体系の斉合性と港湾の近代化） （終了）	大会実行委員会 本部事務局	
8/9（金）	9.00 10.20 10.30 〜 12.00 13.00 〜 14.20 14.30 16.00 17.00	研究報告会（共通論題つづき） （終了） シンポジユウム（別紙ご参照） （北海道港湾の現状と将来課題） 昼食 シンポジユウム（つづき） （終了） 総括討論（共通論題・北海道港湾問題） 総会 第7回大会閉会	大会実行委員時 本部事務局	
8/10（土）〜8/11（日）（自由参加）	大会後の港湾見学その他について ① 釧路港 ② 留萌港→稚内港の各コースが準備されていますので希望者はお申し込み下さい。 （なお、詳細は大会時にご連絡します。）		大会実行委員会	経費は参加者負担

なお、大会開催中の行事および各会の大要を示すと次の通りであった。

第7回全国大会次第　（8月7日）（13.30〜　）（司会）神代方雅（小樽市）

開会の辞……上原　轍三郎（北海学園大学・北海道部会々長）

祝　　辞……（知　　事）

（小樽市長）

高倉北海学園大学長

挨　　拶……矢　野　　剛（城西大学）会長

自由論題報告

共通論題報告

大会シンポジユウム

総　括　討　論

総会その他

閉会の辞……桧　山　千　里（川崎建設・株）副部会長

（（8月9日）17.30終了）

懇　親　会　（8月7日）（18.30～20.00）（司会）徳田欣次（総合経済研究所・部会事務局長）

歓迎挨拶　　北海道知事、小樽市長、北海道開発局長、北海道海運局長、北海道港湾協会長、北海道総合経済研究所長

学会挨拶……矢　野　　剛（会長）

宴　　会

テーブルスピーチ（各氏・会場にて依頼）

余　　興

理事役員会　（8月7日）（12.30～13.10）於・大会々場

函館シンポジユウム　（8月5日）（13.00～15.00）於・函館大学

（テーマ）「青函トンネル開通の函館経済へ及ぼす影響」

（司会）和　泉　雄　三（函館大学）

報告（問題提起）奥　平　忠　志（函館工専）

討論　　函館関係者（若干名）

道外予定参加者（ＡＢＣ順）

喜多村昌次郎（原田港湾作業・株）、北見俊郎（関東学院大学）、今野修平（東京都港湾局）、柾幸雄（横浜市立大学）、岡庭博（大阪産大）、大島藤太郎（中央大学）、柴田悦子（大阪市立大学）

講　演　会　（8月7日）（11.00～12.30）於・大会々場

（司会）筒　浦　　明（北海学園大学）

地域開発と港湾……栗　林　　隆（北海道開発局）

港湾機能と港湾配置……高　見　玄一郎（港湾経済研究所）

研究報告会　（8月7日）（14.00～17.20）（8月8日）（9.30～11.30）

自　由　論　題　於・大会々場（司会）神　代　方　雅（小樽市）

港湾の建設に伴う社会経済的影響……筒　浦　　明（北海学園大学）

港湾における船主負担の問題……岡　庭　　博（大阪産業大学）

港湾運送機能合理化の考察

— 定期船積貨物を中心として —……宮　地　光　之（本間船舶作業）

港湾労働災害に関する使用者責任について

— 未発災害事例の考察をとおして —…玉　井　克　輔（海上労働科学研究所）

港湾の近代化と「制度」の問題……佐々木　高　志（大興運輸・株）

共　通　論　題　（8月8日）（12.40～17.00）（8月9日）（9.00～10.20）

（司会）徳田　欣　次（北海道総合経済研究所）

苫小牧港における専用船の実態……松　沢　太　郎（苫小牧港管理組合）

港湾の近代化と運送の機械化……和　泉　雄　三（函館大学）

都市化と港湾の近代化……今　野　修　平（東京都港湾局）

海運流通の斉合性……神　代　方　雅（小樽市企画部）

輸送革新と港湾の近代化……喜多村　昌次郎（原田港湾作業・株）

大会シンポジユウム　（8月9日）（10.30～12.00）於・大会々場

（テーマ）「北海道港湾の現状と将来課題」

（問題提起）

北海道漁港の問題点……工　藤　　勲（北海道総研）

北海道開発と港湾……武　山　　弘（北海道総研）

経済の不均等的発展と北海道港湾……北　見　俊　郎（関東学院大学）

総括討論

（テーマ）共通論題および北海道港湾について

（司会）柴　田　銀次郎（関西大学）

和　泉　雄　三（函館大学）

北　見　俊　郎（関東学院大学）

総　　会　（8月9日）（16.00～17.00）於・大会会場

注　上記北海道大会にかんする学会記事としては、大会の様子、シンポジユウムの内容、その他を立体的にのせる予定でしたが、都合により、プログラムにしたがっての概要項目にとどまったことをおわび致します。

2. 第7回港湾経済学会総会記録

（43年8月9日　於　小樽市）

議長に柴田副会長を選び以下の議事がすすめられた。

なお、伊坂事務局長辞任申し出があり、そのため従来から実質的に実務を行っていた北見氏を事務局長におねがいした。

（Ⅰ）報告事項が北見事務局長から以下のとおりおこなわれた。

(1) 第6回大会完了の件

(2) 事業促進

A　委託研究

B　年報

年報については編集委員を強化し、財政的うらづけも行う等事務局内部の再編成を行う。

C　部会活動

北海道部会……従来から積極的であり、今大会を成功裡に実行された。

関西、関東も最近活発化してきた。

D　43年度大会準備

例年よりも短い期間であったが大変な努力によってすすめられた。

(3) 会員の増減は、協議事項中にふくめる。

以上の報告を全員で承認し、協議事項に移った。

（Ⅱ）協議事項

(1) 会計（予算、決算）承認の件

会計監査を終了と承認、決算報告は会計幹事欠席のため、北見事務局長から報告があり、全員で承認された。

(2) 次期大会の件

議長より候補地の希望をつのられ、すでに開催を希望している大阪市を全員一致で承認、大阪市港湾局および大阪市大の会員（柴田悦子氏）から受け入れのあいさつがあった。

(3) 部会活動の件

(4) 理事、役員改選の件（10月改選期となる）

① 理事の改選

本来は投票によった方がよいと思われるが、時期がおそくて間に合わないので、理事・役員会での案が北見事務局長より報告がなされた。全理事を再選し、欠員を補う意見で新理事を加える。佐波理事死亡に関連し、かわりに大阪港湾局長を理事に選びたいむね報告が行われ全員の承認がなされた。

会計監査についても理事会の推薦者を承認するよう一任した。

② 会長、副会長の改選

新理事会において10月以降選出することにし、会長、副会長の総会承認については今年度総会の事前承認を得るよう今年のみ臨時措置をみとめた。

尚、会計幹事永島氏辞任の件、本人の申し出により、後日改めて後任を会長、事務局に委嘱する。

(5) 次年度大会共通論題の件

大体において大都市問題と港湾といった関係をテーマにする。尚、詳細については、事務局理事会等で検討を行う。

(6) 会員の増減

新入会員の承認　賛助会員　4社

個人会員　12名

全員入会が承認された。

最後に明田副会長より、北海道大会のために地元でなされた努力に感謝の意が表され、閉会された。　（神代方雅　記）

3. 部会活動状況

関西部会

① 43年度第1回研究報告会は、43年6月21日、神戸第三港湾建設局において海運経済学会関西部会と合同で開催した。出席者は35名。

報告は、明治海運 村地氏の「船員賃金の企業格差」。氏は戦後歴史的に船員賃金体系の変化を述べつつ、企業間格差の現状を紹介されて、一方で格差是正の要素も多いが企業体力との矛盾を指摘され、いずれにしても賃金体系の簡素化の必要を述べられた。

神大高村氏『コンテナーの理想と現実』氏はコンテナリゼーションの理想と現実の矛盾点を①海上運賃の引下げ、② door to door の現状、③道路整備の不充分さ④同盟のコンテナ・ルール、⑤海上保険料等の各項にわたって説明された。

② 43年度第2回研究報告会は、44年3月29日、大阪科学技術センターで開催した。

報告は、阪神外貿埠頭公団 加納治朗氏「外貿埠頭公団のコンテナバースについて」、大阪市大 柴田悦子「港湾における労働生産性について」

加納氏の公団コンテナバースの建設状況と管理運営に関する報告に関して、出席者からの具体的質問が熱心に行われた。

なお当日日本海上コンテナ協会横山氏の好意により、当協会作成のコンテナ映画を鑑賞した。

③ 3月29日報告会の午前中、関西側理事会が開催された。議題は、第8回日本港湾経済学会大会の準備について。大会日程、共通論題、会場決定など行ったのち、細部の地もと事務執行体制を確立、大阪市港湾局に大会地もと事務局をおくことに決めた。

（柴田悦子　記）

関東部会

関東部会は、従来海運経済学会の関東部会と合同にて開催してきたが、昭和43年度から単独に部会の開催を行った。

① **第1回部会**

日時　昭和43年7月6日（土）

場所　「平沼記念会館」（横浜）

1) 発表者、喜多村昌次郎（原田港湾作業・株）

研究題目、「ターミナル・オペレーターの諸問題」

2) 発 表 者　北見俊郎

研究題目　「変革期の港湾産業とその課題」

参 加 者　23名

発表終了後討論が行なわれると共に、今後のターミナル・オペレーター問題の研究方向に関する協議がもたれた。（この記事、年報No.6と重復）

② 第2回部会

日時　昭和43年7月27日（土）

場所　日本港湾協会　談話室（東京都港区）

発表者　喜多村昌次郎氏（原田港湾作業・株）

研究題目「ターミナル・オペレーター問題とその重要性」

発表終了後次の討論が行なわれた。

「わが国におけるターミナル・オペレーター問題とその将来」

参会者　22名

本会終了後関東部会の定期的開催等機構強化のため集会係を設置し、部会運営と万全を期することになった。

③ 第3回部会

日時　昭和43年12月14日（土）

場所　日本港湾協会　談話室（東京都港区）

(1) 発表者　織田政夫氏（東京商船大）

研究題目「コンテナリゼーションと港湾」

(2) 発表者　山本和夫氏（東京都港湾局）

研究題目「ターミナル・オペレーター研究の視点」

参会者24名

要旨 (1) コンテナリゼーションが定期船市場へいかなる影響を及ぼすかを説かれて、それよりみて港湾の存在価値や港湾問題の本質について言及なされた。

(2) ターミナルオペレーターの現状、形成、日本的特徴について分析さ

れた後、管理、近代化との関係についての見解が発表された。

④ 第4回部会

日時　昭和44年2月15日（土）

場所　日本港湾協会　談話室（東京都港区）

(1) 発 表 者　玉井克輔氏（海上労研）

研究題目　港湾労働者の定着に関する一考察――港湾労働力構造の分析の試みにたって――

(2) 発 表 者　東寿氏（石川島播磨重工）

研究題目　米国港湾経営に関する報告

参 会 者　20名

要旨　(1) 港湾労働者の定着問題発生の背景から説き起し、定着主体と定着対象について詳細な実態調査とその分析結果を基に定着対策の基本的問題についての見解が発表された。

(2) 米国におけるターミナルオペレーターと埠頭経営の方式から、わが国の港湾管理の問題点と港湾法成立前後の事情に言及されて、わが国なりのターミナルオペレーター成立の一方法について示唆的な見解を打出された。　（今野修平　記）

北海道部会

（都合により、別途北海道部会報に集録の予定）

3. 常任理事会開催記録

昨年度大会後、本年8月までに下記のように常任理事会が開催された。なお、従来は関東、関西の常任理事会を別々に開催していたが、これをできるかぎり合同の上開催のたてまえとした。

(1) 日時　昭和43年11月13日（水）　PM 4：00～6：30

場所　崎陽軒（横浜）

1）報告・協議事項

① 北海道大会終了について

大会終了と共に各所関係者への謝礼挨拶、および北海道部会事務局と反省会

を行い、後日各地実行委員会ならびに関係者に2回にわたり120余名に礼状を送付した。（その他省略）

2）役員改選について

北海道大会総会時の決定（別紙総会記録参照）にもとずき、とくに会長、副会長、常任理事、会計監査の選挙を行う。

学会の現状からして大体において総会の決定は現状を維持するものとする理解のされ方が一般的でもあったとされたが、一応下記のように郵送投票を行うことにした。

① 選挙管理委員決定

北見俊郎　柾　幸雄　鈴木清子（事務局員）

高見玄一郎（立会人）

② 投票用紙の発送（11月20日頃）

投票〆切期日（12月10日まで）

開票日時（〆切日直後、管理委員会にて開票）

③ 開票と共にこれを全会員に通知する。

3）事務局再編成について

① 会計幹事　柾　幸雄（会長委嘱）

② 年報編集委員委員会を次のように再編成する。

編集委員　荒木智種　北見俊郎　柾　幸雄

柴田悦子　徳田欣次　山本泰督

尚、編集委員会は事務局業務と別個の機能をもって編集刊行の実をあげるようにし、この中心的役割を荒木氏に依頼する。

4）大阪大会について

10月9日大阪市港湾局と打合せ（北見、柴田悦）の事情報告を行い、現地の様子を考慮して、とりあえず来秋10月14日、15日、16日に内定。尚、具体的な諸問題や詳細に亘る点、および共通テーマ等については、現地の諸事情をとり入れて後日決定のこと。この件については、海運経済学会、交通学会等の関係をも考慮する。

5） 部会活動について

① 北海道部会活動事情について

② 関東部会活動事情について

③ 関西部会活動事情について

6） その他

（省略）

(2) 日時　昭和44年5月10日（土）PM　1.00～4.00

場所　三菱信託銀行（横浜）

1） 報告事項

(1) 事務的諸報告

① 昭和43年11月13日常任理事会の際きめられた役員改選の結果は下記のようであった。なお、これは北海道大会の総会にて「事前承認」という特別措置を得ている。

会　　長（矢　野　　剛）

副 会 長（柴　田　銀次郎）

〃　（白　山　源三郎）

常任理事（東　　寿）（東京）

〃　（伊　坂　市　助）（横浜）

〃　（高　見　玄一郎）（横浜）

〃　（前　田　一　三）（名古屋）

〃　（佐々木　誠　治）（神戸）

② 日本学術会議よりの学会活動調査報告について

③ 昭和42年度運輸省委託調査報告書について（高見氏）

④ 前田常任理事辞任申出にかんして

(2) 大阪大会準備

昭和43年11月9日および昭和44年3月29日大阪にてもたれた準備会の事情報告、および大会次第、その他詳細な準備の具体的諸問題について

(3) 部会活動状況

北海道部会事情、関東部会事情（北見氏）大阪部会事情（柴田氏）

(4) 年報編集状況（荒木氏）

(5) 会員増減の件

永島氏退会、清沢氏他２名入会（協議事項）

(6) 会計報告（柾氏）

昭和43年度会計報告承認

2) 協議事項

(1) 昭和44年度予算編成承認（柾氏）

(2) 前田常任理事辞任希望に関する件

(3) 部会活動の件

名古屋地区の部会結成推進について

(4) 来年度大会準備の件

来年度大会開催候補地として、清水港を予定、当地関係者各位に依頼連絡を行う。

4. 運輸省委託研究調査報告書の件

昭和42年度に行なわれた運輸省委託研究調査は、昭和43年３月に終了し、同年９月に下記のように運輸省港湾局より報告書が刊行された。

（報告書名）「ライナーポート調査報告書＝横浜港における定期船のターンラウンドと貨物の流動について＝」

（関係者）高見玄一郎、中西睦、河西稔、北見俊郎

5. 会員移動の件

別冊に会員名簿、会則、役員名簿を編集したが、第６回大会時に入会申込みをされた方およびそれ以降に申込みをされた方については、賛助会員、正会員とも別冊名簿に収録してある。

なお、第７回大会以降に申込みをされた方については、一応常任理事会において入会仮証認を得、その年度の大会時総会において正式に証認を得る形式をとっている。また、役員等の移動についても、一応手続を行った上で、名簿に収録してある。名簿に収録された会員中には、総会にて正式承認を必要とするものもふくまれる。この点名簿作製の事情からも一応のご了承を乞う次第である。

尚、名簿作製においてはミス・プリントのないように注意をしているが、タイプ版のため、きわめて校正がしにくいので校正もれ、誤記のある場合にはご海容を乞うと共に訂正方ご協力をお願いする。

6. 弔　　意

札幌大学の森光夫氏が、昭和44年9月23日胃癌のためにお亡くなりになった。

ここにつつしんで哀悼の意を表すると共に、そのご冥福を祈り、かつご遺族のご平安を念ずる。

会員業績リスト

注(1) このリストは昭和44年2月20日〆切にて、それ以前約2か年における会員の研究業績をアンケートし、それをアルファベット順に収録したものである。

(2) したがって、それ以前の業績リストは「港湾経済研究」No.5（昭和42年）に収録されている。

(3) 会員中、海外出張その他の理由でアンケートの得られなかった会員についてはふくまれない。

(4) このリストは主として港湾関係のものにかぎられ、リスト中「区分」は、著書共著、訳書、譯訳、論文、資料、書評、紹介等の別を示す。

会員業績アンケート集計

氏　　名	区　分	発表テーマ	発表箇所	発表年月
東　　寿		都市と港湾	「港湾」	1967. 11
		港湾革命談議（その 1）	〃	1968. 7
		〃　（その 2）	〃	1968. 9
		〃　（その 3）	〃	1968. 10
		〃　（その 4）	〃	1968. 11
		〃　（その 5）	〃	1969. 1
		大阪湾ポート・オーソリティ問題	神戸市編広域港湾の開発と発展	1968. 10
荒木智種	共　著	港湾におけるジャーナリズムの研究（変革期の港湾産業）	港湾産業研究会編	1968. 12
	譯　訳	ロッテルダムの現状の将来	「港湾」	1968. 11
	資　料	ジャーナリズムと港	日本海事新聞社（新年特集号）	1969. 1
米花（べいか）　稔	著　論	地域開発計画論	日本経営出版会刊	1967. 10
千須和　富士夫		物的流通の近代化と保管機能	港湾と貿易 Vol. 1. 3. No. 12	1967. 12
橋本英三		国際コンテナ貨物輸送についての若干の考察	日本商業英語学会	1968. 11

氏　　名	区　　分	発表テーマ	発表箇所	発表年月
		国際コンテナ貨物輸送とアメリカ主要港湾におけるコンテナ・ターミナル	「名城商学」第18巻第1号	1968. 9
五十嵐　日出夫		地域開発と港湾	第8回港湾管理事務講習会	1967. 8
		北海道・本州間貨客輸送状況に関する研究	北海道開発局	1967. 11
		海上貨物輸送需要想定について	〃	1969. 2
市川勝一	共　著	港湾産業の近代化と教育訓練（港湾産業の発展のために）	港湾産業研究会編　No.1	1967. 4
		輸送革新と教育訓練（変革期の港湾産業）	港湾産業研究会編　No.2	1968. 11
和泉雄三	共　著	物資流動と輸送手段選択の推移	北海道移出入白書	1968. 3
	〃	北海道と本州各地域との物資交流の推移　—物量による考察—	〃	〃
	論　文	港湾近代化の基本問題—コンテナリゼーションと労働関係の前近代性—	函館大学論究第3輯	1968. 3
	〃	港湾の近代化と運送の機械化	「港湾経済研究」No. 6	1968. 8
	書　評	港湾産業の発展のために	「港湾経済研究」No. 5	1967. 10
神代（くましろ）方雅	論　文	海運機能のバランスと余裕	日本港湾経済学会北海道部会誌	1967.
	〃	港湾とシテイプランの基本論	「日本港湾経済研究」No.6	1968.
勝呂　弘	論　文	中世教会法の利息禁制と地中海の海上貸借	「名古屋学院大学論集」第14号	1968. 6
		海上保険創生史料をめぐる学説の展望	「甲南経営研究」第9巻第2号	1968. 9
河村宣介	論　文	臨海地帯と産業観光	「りんかい」第5号	1968. 1
喜多村　昌次郎	著　書	輸送革新と港湾	港湾経済研究所	1968. 4
	共　著	変革期の港湾産業　—埠頭の効率利用と港湾運送—	港湾産業研究会編　No.2	1968. 12
	〃	国際海上コンテナ輸送をめぐる12章	成山堂	1969. 2

氏　　名	区　分	発表テーマ	発表箇所	発表年月
	論　文	米国における港湾経営とポート・オーソリティ　(2)	貿易実務ダイジエスト	1967. 8
	〃	〃　(3)	〃	1967. 10
	〃	輸送革新と港湾ターミナル運送　(1)	〃	1967. 11
	〃	〃　(2)	〃	1967. 12
	〃	〃　(3)	〃	1968. 1
	〃	港湾投資と港湾政策　(1)	〃	1968. 2
	〃	〃　(2)	〃	1868. 3
	〃	〃　(3)	〃	1968. 4
	〃	港湾管理運営の諸問題　(1)	〃	1968. 5
	〃	〃　(2)	〃	1968. 6
	〃	〃　(3)	〃	1968. 7
	〃	港湾近代化をめぐって　(1)	〃	1968. 8
	〃	〃　(2)	〃	1968. 9
	〃	〃　(3)	〃	1968. 10
	〃	コンテナリゼーションと港湾労働	「海運」	1967. 11
	〃	港湾と港湾運送事業法	「港湾」	1968. 1
	〃	輸送革新下の港湾労働	「港湾と貿易」	1968. 2
	〃	埠頭の効率利用と港湾労働	〃	1968. 5
	〃	国際海運貨物取扱業の現状	ザ・コンテナエージ	1968. 6
	〃	通し船荷証券について	〃	1968. 7
	〃	国際海運貨物取扱業の将来	〃	1968. 8
	〃	ターミナル・オペレーションの経営基礎 —米国主要港との比較において—	「港湾経済研究」No. 6	1968. 8
	〃	港湾運送における港湾労働問題の基礎	「港湾」	1969. 2
	資　料	米国における埠頭ターミナル・オペレーションと港湾労働	港湾貨物運送事業労働災害防止協会	1968. 2
	書　評	北見俊郎著「港湾論」	「海運」	1968. 8
	〃	〃	〃	1968. 8
北見俊郎	著　書	港湾経済文化論序説	横浜市	1968. 3
	〃	港湾論	海文堂	1968. 6
	共　著	広域港湾の開発と発展	神戸市	1968. 10
	〃	変革期の港湾産業とその課題	港湾産業研究会編　No.2	1968. 12

氏　名	区　分	発表テーマ	発表箇所	発表年月
	共　訳	低開発国工業化の過程と諸問題	評論社	1967. 9
	論　文	海事コンテナ輸送体制と港湾労働の問題点	「海運」No.476	1967. 5
	〃	港湾管理問題と港湾の近代化（下）	「経済系」No. 72	1967. 6
	〃	港湾における「合理化」とその構造的問題性	「運輸と経済」No. 7	1967. 6
	〃	港湾労働法の問題点と将来	「労働経済」No. 11	1967. 7
	〃	輸送の「近代化」と全港湾輸送体制	「港湾経済研究」No. 5	1967. 10
	〃	港湾運営の諸問題と基礎条件	「経済系」No. 75	1967. 12
	〃	東京湾港湾の開発問題と広域港湾への一考察	「港湾荷役」vol. 13. No.1	1968. 1
	〃	転換期の港湾政策	「日本経済政策学会年報」No. 15	1968. 3
	〃	社会科学としての「港湾論」(1)	「港湾」vol. 44 No.8	1967. 8
	〃	〃 (2)	〃 No.9	1967. 9
	〃	〃 (3)	〃 No.10	1967. 10
	〃	〃 (4)	〃 No.12	1968. 12
	〃	〃 (5)	〃 vol.45 No. 1	1969. 1
	〃	〃 (6)	〃 No. 2	1969. 2
	〃	コンテナ輸送に伴う港湾問題	「海運」No.492	1968. 9
	〃	「東京湾港湾」問題と「広域港湾」の基礎課題	「経済系」No.79	1969. 1
	資　料	経済発展と港湾のビジョン	「明るい市政」No.23	1967. 5
	〃	「港湾問題」をめぐる合理化と近代化	「労働経済」No.15	1968. 7
	書　評	掘江保蔵「海事経済史研究」	「港湾」vol.44. No. 5	1967. 8
	〃	住田正一「港湾管理と運送業の基礎理論」	「海運」vol.45. No.10	1968. 10
	〃	有末、柾、青木「交通地理学」	「港湾」vol.46. No.1	1969. 1

氏名	区分	発表テーマ	発表箇所	発表年月
今野修平	共著	交通地理学（都市開発と港湾分担）	大明堂	1968. 6
	〃	史的考察よりみた変革期のはしけ運送	港湾産業研究会編 No.2	1968. 12
	論文	港湾施設利用の問題点	「港湾経済研究」5号	1967. 10
	〃	輸入食糧とこれからの港湾	輸入食糧協議会創立20周年記念論文集	1968. 1
	〃	専用船と国際貿易	「地理」13巻2号	1968. 2
	〃	都市化時代における港湾機能の変貌	「カラム」27号	1968. 3
	〃	日本の内航海運の地理学的考察	「東北地理」20巻 3号	1968. 7
	〃	都市化と港湾の近代化	「港湾経済研究」6号	1968. 8
	〃	Dredging Engineering Plans Great Role in Land Development Program	Construction Machinery vol. 1 *No.*1	1968. 9
	〃	鉄鋼の流通と鉄鋼専門埠頭計画（その1，その2）	「港湾荷役」13巻 5号 6号	1968. 9 1968. 11
	〃	はしけ運送の成立と変革（都市交通の諸問題）	交通学研究 1968年年報	1968. 10
	〃	東京をめぐる内水路の利用と将来への提案	「港湾」45巻11号	1968. 11
松木俊武	共著	西ヨーロッパ港湾に於ける穀物荷役と保管設備について	港湾産業研究会 No.1	1967. 5
柾幸雄	著書	国際航空貨物流動状況報告書（全）	日本関税協会	1968. 1
	〃	交通地学理	大明堂	1968. 6
	論文	わが国における運河発達の特性	「港湾経済研究」No.5	1967. 10
	〃	本邦運河経済論序説	「経済と貿易」No.94	1968. 3
	〃	「流通革命と港湾」の世界史的考察	「港湾」45巻 5号	1968. 5
	〃	港湾と都市の形成発展	「都市問題研究」20巻 7号	1968. 7
	〃	国鉄と市政	「都市問題研究」59巻 9号	1968. 9

氏名	区分	発表テーマ	発表箇所	発表年月
	論文	大港湾の実現と交通体系	広域港湾の開発と発展	1968. 10
	〃	運河の発達とその意義・機能の推移	「港湾」45巻11号	1968. 11
	〃	地域開発と交通	地域開発と交通 3集	1968. 12
	〃	世界の空運と空港	「地理月報」No.144	1968. 12
	資料	スエズ運河の閉鎖の影響と海運の動向	「時事教養」No.420	1968. 11
	〃	神奈川県貿易構造調査報告書（共著）	神奈川県商工部	1968. 12
	書評	北見俊郎著「港湾論」	「港湾経済研究」 No.6	1968. 8
松沢太郎		地域開発と新しい臨海工業地帯の整備 —苫小牧港—	「工業立地」	1968. 7
		開港6年目を迎えた苫小牧港	「港湾」	1968. 9
町田真也		北海道港湾における立地過程と問題点	日本港湾経済学会北海道部会々報「北海道港湾経済」No.3	1967. 5
宮地光之	共著	港湾産業の革命的変動（変革期の港湾産業）	港湾産業研究会編 No.2	1968. 12
		港湾産業合理化と港湾産業の合理性	「海運」	1968. 11
永野為紀		「小名浜工業港の現状と成立過程」	「新地理」16巻 1号	1968.
新宮志良		台湾の自由港高雄輸出加工区の特徴と現代的意義の考察	「国際経済大学論集」第1巻 第1号	1967. 12
		長崎港の貿易・経済的役割と自由港構想	「長崎文化経済研究所季報」	1969. 2
西山安武		荷役よりみた定期船港泊時間の検討（Ⅱ）	「日本船舶学会誌」	1967. 5
		港湾近代化への基礎調査	海事産業研究所報	1967. 9
		〃 （Ⅱ）	〃	1968. 12
		物的流通コスト分析による港湾近代化へのアプローチ（共同研究）	〃	1968. 11

氏　　名	区　　分	発　表　テ　ー　マ	発表箇所	発表年月
岡　庭　　博	共　　著	タンカー専用船の発達と海運経営	「現代日本の交通経済」	1968. 3
	論　　文	船型大型化の経済性とその限界	「交通学研究」1967年年報	1967. 10
	〃	港湾業務の合理化と海運	「港湾経済研究」No.5	1967. 10
	〃	入港料問題について	大阪港	1968. 10
小　原　三佑嘉		着船売買と港の慣習	「ジュリスト」海事判例百選	1967. 11
		Bill of Lading は果して船荷証券か	海外商事法務	1968. 1
		テンテナ輸送に必要な運送証券　Ⅰ．Ⅱ	海外商事法務 〃	1968. 6 1968. 11
		コンテナ船荷証券に関する技術論的研究	「神戸外大論叢」	1968. 12
斎　藤　公　助		営業倉庫の現状と問題点	輸送展望(〃)	1967. 3
		冷蔵倉庫の現状とその動向	〃	1967. 9
		港湾運送の現状と港湾労働	〃	1968. 3
酒　井　正三郎		大都市社会の出現	アカデミア	1968. 5
佐々木　誠　治		コンテナー埠頭の沈思録	「国民経済雑誌」115—6	1967. 6
	論　　文	神戸港の発展指標について（その一）	「経済経営研究」18—Ⅱ	1968. 5
		〃　　（その二）	19—Ⅱ	1968. 12
柴　田　悦　子		日本の交通問題第八章内航海運	ミネルバ	1967. 4
	共　　著	港を洗う近代化の波	エコノミスト	1967. 6
	論　　文	流通革命と貨物流動—大阪港を中心に—	「港湾」	1968. 4
	〃	港湾の経済的性格に関して	港湾経済研究 No.6	1968. 8
	〃	船員の賃金体系について	海運経済研究 No.2	1968. 10
	〃	物的流通と海運・港湾	誠文社「貨物と流通」	1968. 10
	〃	海上コンテナと海運同盟	経営研究98号	1968. 11
	〃	「内航海運の実態」佐々木誠治著	国民経済雑誌	1967. 7
	書　　評	北見俊郎「港湾論」	経済系	1968. 10

氏　名	区　分	発表テーマ	発表箇所	発表年月
篠原陽一	論　文	港湾労働実態報告書(部分)	運輸省港湾局	1969. 3
杉沢新一	論　文	私の提言「港湾経営に対する私見」	「港湾」	1968. 8
	資　料	物的流通市場の実証分析	運輸調査局	1968. 7
	〃	高速道路の維持管理費研究	日本道路公団	1969. 1
高見玄一郎	訳　書	コンテナーオペレーションの経済理論（謙訳・分冊）	港湾経済研究所	1968.
	〃	(1) ユニット貨物の海上輸送 Maritime Transportation of Unitized Cargo	〃	
	〃	(2) ユニット貨物の海陸輸送 Inland and Maritime Transportation of Unitized Cargo	〃	
	〃	(3) トップ・マネージメントの観点から見たコンテナーリゼーションに対する概念と経済の一般分析 Cargo Containerization	〃	
	〃	(4) データの自動プロセッシング（外3編） An Automatic Data Processing System	〃	
		Maritime Cargo Transportation Conference : National Academy of Sciences-National Research Council, Washington D.C. U.S.A. Publication 592. 720. 745. 1135.		
	著　書	アメリカ港めぐり	港湾経済研究所	1969.
	資　料	東京湾のポートオーソリティに就て	神奈川県委託論文	1969.
		欧州主要港湾のコンテナーシステム	横浜市委託論文	1969.
田中文信	共　著	貨物運輸の近代化—物的流通の合理化を中心として	交通日本社刊行	1968. 5
	論　文	貨物賃率の構造と流通コスト	「貨物教室」213号	1967. 11

氏　名	区　分	発表テーマ	発表箇所	発表年月
	論　文	物的流通合理化の研究方法	「貨物教室」214号	1967.12
	〃	貨物誘致—その意義と手段	〃　215号	1968. 1
	〃	外国交通・運輸文献の閲読について	〃　216号	1968. 2
	〃	貨物運輸と工業立地との関係	「公営評論」217号	1968. 3
	〃	国鉄財政の再建策について	〃　第13-2号	1968. 2
	〃	物的流通経済論序説	「社会科学論集」　第4号	1968. 3
	〃	交通・運輸理論への接近方法	「貨物教室」219号	1968. 5
	〃	貨物輸送革新と物価問題	「公営評論」第13巻—9号	1968. 9
	〃	運送法規の基本的構造と問題点	「貨物教室」220号	1968. 6
	〃	経済面からする運輸問題の研究	〃　221号	1968. 7
	〃	商学・経営学および会計学専攻者の運輸理論研究方法	〃　222号	1968. 8
	〃	交通理論の新しい側面	〃　223号	1968. 9
	〃	交通工学の成立	〃　224号	1968.10
	〃	交通事故防止論序説	〃　225号	1968.11
	〃	フレートライナー輸送方式の構想	〃　226号	1968.12
	〃	貨物輸送力増強とストックポイント	〃　227号	1969. 1
玉井克輔		港湾労働災害の責任の所在について	学会法7号　第7回大会	
寺谷武明	論　文	本邦港湾政策史序説—明治時代を中心として—	「交通学研究」	1967.10
	〃	造船奨励法下の民営造船所	海事産業研究所報　13号～15号	1967. 7～9
	〃	第一次大戦期の民営造船所	同上　21号～22号	1968. 3～4
	〃	日米船鉄交換と民営造船業	同上　23号～30号	1968. 5～12
徳田欣次	論　文	北海道における不安定雇用の実態	北海道労働研究 104号	1968. 3

氏　　名	区　分	発表テーマ	発表箇所	発表年月
	書　評	佐々木誠治著「内港海運の実態」	北海道港湾経済 No.3	1967. 5
	〃	喜多村昌次郎著「米国主要港における埠頭ターミナルの運営と経営	〃 No.6	1968. 5
	紹　介	檜山千里編「中村廉次先生伝」	〃 No.5	1968. 4
	〃	北海道の港運業の社史について（その1）	〃 〃	1968. 4
筒浦　明	論　文	総合交通体系的にみた北海道の物資流動 —道内主要工場を主体とした輸送ルート—	総合交通工学の体系化に関する研究グループ	1968. 3
	〃	北海道における物資流動からみた港湾の位置づけ —道内主要工場を主体とした輸送ルートについて—	日本港湾経済学会北海道部会	1968. 4
	〃	道央新産都市の現状と問題点	「地理」第13巻第10号	1968.10
	資　料	道南地域の現状	北海学園大学開発研究所	1967. 6
	〃	都市地理学	北海道企画部	1967.10
渡辺行郎	共　訳	ヌルクセ世界経済の均衡と成長	ダイヤモンド社	1967.
	論　文	日本的二重構造と貿易政策	世界経済評論	1967.12
矢野　剛	著　書	欧米のポート・オーソリティとわが国の港湾管理	明治100年記念講座 広域港湾の開発と発展 神戸市企画局調査部編	1968.10
	〃	国際海上コンテナ輸送と外貿埠頭公団の出現	城西大学経済学会発行「城西経済学会誌」第4巻第1号	1968.12

「港湾経済研究」総目次

1. 1963年（No. 1）（部数なし）

序……矢　野　　剛

研　究

本邦戦時港湾施策……矢　野　　剛
港湾財政の問題点……柴　田　銀次郎
港湾設備の増強と地域開発……伊　坂　市　助
港湾における新しい労働管理の概念……高　見　玄一郎
港湾運送業の現状……松　本　　清
衣浦港の交通……松　浦　茂　治
港湾経済の本質……北　見　俊　郎
港湾施設の与えた損害に対する
　　船主の賠償責任と海上保険……今　泉　敬　忠

文献紹介

「イギリス主要港湾に関する調査委員会報告書」…中　西　　睦
「神戸港における港湾荷役経済の研究」……寺　谷　武　明

学会記録

2. 1964年（No. 2）（部数若干あり、送料実費とも ¥ 500）

序……矢　野　　剛

研　究

共通論題（港湾投資の諸問題）

長期経済計画における港湾投資額の推計……加　納　治　郎（1）
摩耶ふ頭の建設と運営……岸　　孝　雄（16）
公共投資と港湾経済……北　見　俊　郎（28）

自　由　論　題

イギリスにおける港湾諸料金の徴集制度と問題点…中　西　　睦（42）
ヨーロッパの石油港湾……浮　穴　和　俊（51）
港湾労働対策への一提案……柴　田　銀次郎（78）
港湾労働の課題……河　越　重　任（82）
船積み月末集中の原因とその対策……高　村　忠　也（97）
国際コンテナーの諸問題……宮　野　武　雄（114）

文献紹介

北見俊郎著
「アジア経済の発展と港湾」……中　西　　睦（141）
北海道立総合経済研究所編
「北海道の港湾荷役労働」……寺　谷　武　明（145）
同　　上
「港湾労働」……北海道立総合経済研究所（150）

学会記録

日本港湾経済学会会則・役員……（167）
学　会　記　事……（171）
会員業績リスト……（175）
会　員　名　簿……（188）

3. 1965年（No. 3）（部数若干あり、送料実費とも ¥ 500）

序……矢　野　　剛

研　　究

共通論題（経済発展と港湾経営）

港湾のもたらす経済的利益の分析……柴　田　録次郎（1）
港湾経営の「理念」と問題性……北　見　俊　郎（12）

自由論題

港湾機能の地域的問題点……今野修平（25）
国際収支における港湾経費改善のための
理論的考察……中西睦（67）
港湾資産評価とその問題点……杉沢新一（69）

文献紹介

矢野剛著
「港湾経済の研究」……寺谷武明（84）
海運系新論集刊行会編
「海運と港湾の新しい発展のために」……織田政夫（90）
向井梅次著
「港湾の管理開発」……喜多村昌次郎（96）
喜多村昌次郎著
「港湾労働の構造と変動」……徳田欣次（103）
宮崎茂一著
「港湾計画」……川崎芳一（113）
P. C. Omtvedt;
Report on The Profitability of Port Investments
……中西睦（117）
J. Bird;
The Major Seaports of The United Kingdom
……北見俊郎（131）

学会記録

日本港湾経済学会会則・役員……（131）
学会記事……（138）
会員業績リスト……（145）
会員名簿……（151）
編集後記……（164）

4. 1966年（No. 4）（部数若干あり、送料実費とも ¥ 500）

序……矢野　剛

研　究

共通論題（地域開発と港湾）

後進的地域開発と港湾機能……武山　弘（1）

港湾による地域開発問題について……田中文信（16）

港湾機能と経済発展……北見俊郎（31）
——地域開発に関連して——

◇

東北開発と野蒜築港……寺谷武明（59）
——明治前期港湾の一事例——

神奈川県の第3次総合開発計画と
新しい港湾の計画理論……高見玄一郎（72）

港湾における都市再開発の問題……今野修平（87）
——東京港における都市再開発を例として——

自由論題

港湾労働の基調……喜多村昌次郎（101）
——横浜港における労働力移動の素描——

港湾労働の近代化条件について……徳田欣次（121）

港湾の最適投資基準……是常福治（147）
——神戸港における測定の一例——

名古屋港発展史……松浦茂治（158）
——昭和13—32年の20か年について——

港湾の物的流通費について……中西睦（170）

パレット、フォークリフトの諸問題……宮野武雄（186）

資　料

イギリス戦時港湾施策……矢野　剛（195）

東京湾における広域港湾計画に対する一指針……奥村武正・今野修平（206）

横浜港施設改善に関する日本損害保険協会
からの要望について……今　泉　敬　忠（216）

文献紹介

Colonel R. B. Oram;
Cargo Handling and the Modern Port ……松　木　俊　武（220）
Charles P. Larrowe;
Shape-up and Hiring Hall ……山　本　泰　督（225）
高見玄一郎著
「港湾労務管理の実務」……徳　田　欣　次（233）
松宮　斌著
「港湾の財政・経営のあり方」……柴　田　悦　子（233）
横浜市港湾局編
「横浜港における港湾労働者の
実態と住宅事情」……和　泉　雄　三（238）
新潟臨港海陸運送株式会社編著
「創業六十年史」……小　林　寿　夫（250）

学会記録

「港湾経済研究」総目次……（276）
編　集　後　記……（279）

5. 1967年（No. 5）（部数若干あり、送料実費とも ¥ 500）

序……矢　野　　剛

研　　究

共通論題（輸送の近代化と港湾）

輸送の近代化と臨港上屋の運営……松　本　　清（ 1 ）
港湾業務の合理化と海運……岡　庭　　博（ 9 ）
流通近代化とコンテナリゼーション……高　見　玄一郎（19）
物的流通の近代化と港湾……斎　藤　公　助（30）
「輸送の近代化」と全港湾輸送体制……北　見　俊　郎（48）

共通論題（日本海沿岸における港湾の諸問題）

経済開発と日本海沿岸の港湾……佐藤元重（60）
新潟臨海埠頭の形成とその特性……小林寿夫（68）
小樽港の現状と課題……神代方雅（76）

自由論題

港湾施設利用の問題点……今野修平・井上洋二郎（89）
港湾原単位算定における問題点……杉沢新一（105）
港湾労働法の施行をめぐる諸問題……大森秀雄（118）
後進島地域経済発展の転型と港湾商機能……武山弘（128）
砂利類の海上輸送増大化傾向について……棚橋貞明（143）
わが国における運河発達の特性……柾幸雄（157）

文献紹介

住田正二著「港湾運送と港湾管理の理論」……佐々木高志（170）
中西　睦著「港湾流通経済の分析」……河西稔（176）
港湾産業研究会編「港湾産業の発展のために」……和泉雄三（186）
Docks and Hardours Act 1966……河越重任（192）
V. H. Jensen; Hiring of Dock Workers……織田政夫（198）

学会記録

学会記事……（202）
会員業績アンケート……（209）
「港湾経済研究」総目次……（217）

編集後記

6. 1968年 (No. 6) (部数若干あり、送料実費とも ¥ 800)

序……矢野　剛

研　究

港湾の近代化と運送の機械化……和泉雄三（1）

都市化と港湾の近代化……今野修平（14）

苫小牧港における専用船の実態……松沢太郎（30）

港湾の経済的性格に関して……柴田悦子（38）

ターミナル・オペレーションの経営的基礎……喜多村昌次郎（49）
——米国主要港との比較において——

地方公営企業としての港湾整備事業……細野日出男（62）

港湾とシテイ・プランの基本論……神代方雅（74）

貨物輸送史上における港湾……宮野武雄（86）

未来学成立の可能性……本間幸作（100）
——港湾論に関連づけて——

文献紹介

日本港運協会編「日本港湾運送業史」……寺谷武明（121）

松本好雄　『コンテナの輸送実務」……松岡英郎（126）

喜多村昌次郎著「輸送革新と港湾」……玉井克輔（131）

北見俊郎著「港湾論」……柾　幸雄（145）

B. Chinitz ; Freight and the Metropolis……武山　弘（149）

T. A. Smith ; A Functional Analysis of the Ocean Port……山本泰督（156）

学会記録

学会記事……（163）

「港湾経済研究」総目次……（175）

編集後記

編集後記

「風がわたしたちの行く手をはばむので、サルムネの沖、クレテ島のかげを航行し、その岸に沿って進み、かろうじて『良き港』と呼ばれる所に着いた。その近くにラサヤの町があった。」（使徒行伝27章）

「良き港」とは、カロイリメネス（Kaloilimenes）。入江が東にひらけ、美しく最上の港なりという。大都市港湾、広域港湾、コンテナー等々、日本の港は、パウロがローマにむかった最後の旅路のように、突風やうず潮にもまれている。いつの日か、そしてできるだけ早く、日本の港もカロイリメネスになってほしい。

この号も、昨年度の自由論題と、今年度の共通論題を中心にまとめたが、編集委員の再編成も行なわれたので、次号からは編集方針の改革も必要であると思われる。ご多忙の中を玉稿をよせて下さった各位にお礼を申し上げると共に、「港湾問題」ならぬ「大学問題」のうず潮の中で、ずぶ濡れになりながら書かれたと思われる何本かの原稿にはそぞろに胸が傷む想いである。

昨年度の年報にて、集録しえなかった「業績アンケート」はこの号で2か年を集録したが、まだ書いて頂けなかった方があるようなので、今後共よろしくご協力を乞う次第である。学会記事は、いかにも時間がなく集録として不充分な点があり誠に申しわけない。また、神代氏の論文は昨年度の共通論題としてのせるはずのものであったが、都合によって今年度の自由論題の中に入れさせて頂いた点もご了承をえたいと思う。校正は、荒木先生がとくに厳密にやって下さったので、従来のものよりは差がついているはずだし、長島（秀雄）さん、とくに井尻（文也）さんのご骨折にも感謝しなければならない。この号は、格別に原稿の集りがおそくて、最後まで印刷屋さんにご迷惑をおかけしたのも編集上の不手際の故であり、そのためにゆきとどかない点も多くあると思われるので前もってご海容の程お願いしたい。ともあれ、編集もまたうず潮にもまれたが、どうやら、かろうじて「良き港」にたどりつけることができるのだろうか。「大学問題」は、やはり直接間接に学会にも影響を与えている。学会のためにも「大学問題」も「良き港」に着いてあれかしと念ずる。

終りに、年報刊行と関連しては賛助会員の方々の物心両面に亘るご厚意にお礼を申しのべなければならず、正会員ご一同に対しても、今後のご高批とご尽力の頂けるよう念じてやまない。

Sept. 1969（文責・北見）

編集委員　柴田悦子　荒木智種
柾　幸雄　山本泰督
徳田欣次　北見俊郎

港湾経済研究
（日本港湾経済学会年報・No. 7）

1969 年 10 月 1 日 印刷
1969 年 10 月 14 日 発行　　頒価 ¥800（送料共）

編者および発行者　日本港湾経済学会
印刷者　文化印刷株式会社
〒232 横浜市南区日枝町2—64
TEL. 045（261）3169

日本港湾経済学会
〒236（横浜市金沢区六浦町・関東学院大学経済研究所気付）TEL.045（781）2001番
振替口座番号　横浜 3886